

## 経営体の概要

- ・所在地:新潟県上越市柿崎区
- ・経営体名:(株)ふるさと未来
- ・栽培作物・作付面積:水稲65ha
- ・従業員数:5名

## 導入技術

## ○KSAS営農支援システム((株)クボタ製)

- ・インターネット上で地図データと作業データを連動させて、ほ場単位の作業記録等を管理

## ○食味・収量コンバイン((株)クボタ製)

- ・刈り取りながらほ場ごとの収量・食味を測定し、データ化

## 導入経緯

- 面積増加に伴い、ほ場条件に応じた適正な栽培管理の実践が難しくなっている状況。
- そこで、栽培管理の効率化を目指し、平成27年にKSAS営農支援システムを導入。平成29年から食味・収量コンバインを借り収量・品質の安定化に向けた試験を開始。

## 取組の特徴・効果

- KSAS営農支援システムの導入により、作業時間の現状の見える化を実現。
  - ・作業ピークが明確化
    - 作期・品種の改善で解消
  - ・見える化により、従業員意識が変わり、新技術に自ら取組むなど経営全体で省力化が進展。
    - 作業時間▲5.7%
- 食味・収量コンバインと営農管理システムの連動により、ほ場毎の収量・品質が把握できるようになった。
  - ・収量・品質の高位平準化に向け、施肥施計を改善
- 今後は、ほ場マップ上に記載できるデータの拡充(生育データ、作業記録等)、ほ場管理のさらなる適正化及びトレーサビリティによるGAPへの対応を図る計画。

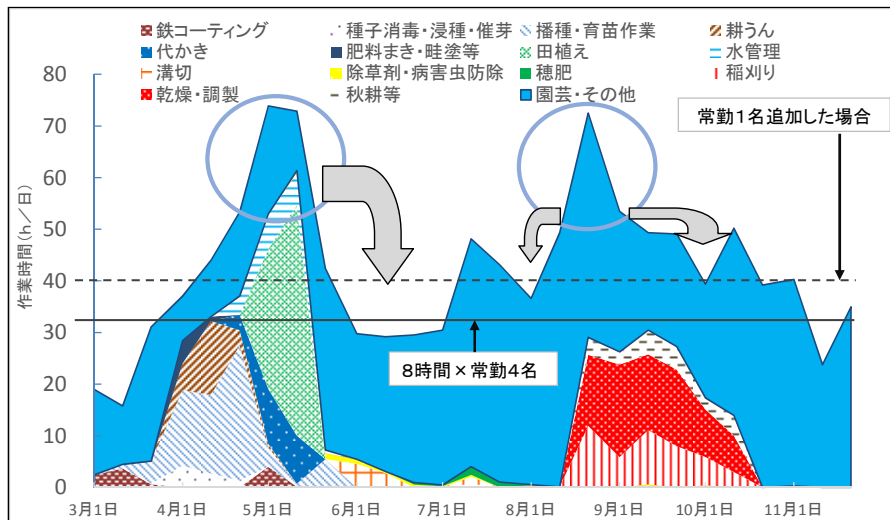


図 平成29年の作業時間の旬別推移